

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(だい 1 3 期 だい 2 年 だい 2 かい だい 2 にち)
ぎじろく
議事録

1 日時 2021 (令和3)年9月12日(日) 午後1時30分～5時00分

2 場所 オンライン会議

3 出席者

(1) 代表者 20人

金 海花、児玉 ノンディシャー、許 成龍、シン バスカ バハドール、
スチエタ スリニヴァサン、張 亮、チョ チョ カイン、バテネフ
アルチョム、ペレーラ ラヒル サンケータ、ボール ウッザル クマル、ボソ
ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ムハマド アイマン アリフ、ユデク
マルチン、尹 智夏、李 歓歓、劉 愛玲、レイバーマン ケビン、和田
恵麗奈、ンディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

佐藤 課長、佐藤 課長補佐、五十嵐 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 11人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 議事

(3) 閉会

【国際コミュニティ部会】

前田部会長「それでは、国際コミュニティ部会を始めたい。まずは、事務局から今日の日程と前回会議のまとめについて説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明）

前田部会長「何か質問はあるか。（なし）では、今日の部会審議について事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料2、2-1に基づき説明）

前田部会長「では、今日は提言候補の絞り込みをしていきたい。まずは、A I チャットボットの多言語化について、事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が説明）

前田部会長「何か意見はあるか。」

張副委員長「私は多言語化するメリットはあると思う。24時間、365日対応している。提言するだけでなく、私たちが翻訳したり、情報を提供したりするところまでやる必要があると思う。」

前田部会長「私も実際に確認したが、最終的にたどりつく情報はPDFのものが多く、結局、必要な情報を多言語で入手するということとはできないと感じた。」

李委員「私も同じ意見だ。窓口の混雑状況などは調べることができるが、複雑な内容はPDFなので根本的な問題の解決にはつながらない。提言にするほどの必要性を感じない。」

事務局高橋専門調査員「以前に情報提供していると思うが、あらためて補足したい。市のホームページには、チャットボットだけではなくて機械翻訳の機能もあるし、英語と中国語ならFAQもある。サンキューコールも多言語対応しているし、国際交流センターには多言語対応の相談窓口もある。」

張副委員長「中国語のFAQはPDFだが文字検索が効かない。英語はPDFではないが、試しに『COVID』と入れてみたが該当しない。チャットボットはやはりメリットが大きい。」

シン委員「FAQとチャットボットのアクセスはどちらが多いのか。」

事務局高橋専門調査員「チャットボットは比較的新しいツールなので、まだ比較できるほどのデータが集まっていないと思う。みなさんに聞きたいのだが、みなさんは何かを知りたかったり、調べたりするときに、市のホームページを利用しているのか。これは、外国人だからということではなく、日本人も含めて多くの人はまずはGoogleなどの検索エンジンで調べたり、そこから市の

ホームページにたどり着いたりすることが多いのではないか。」

委員「私は市のホームページを利用したことはない。」

許委員「私も実際にチャットボットを利用して見たが、一言で言うとAIではないと感じた。定型的な質問に対して、定型の答えしか出てこない。今の性能のものを多言語化しても意味がないと思う。」

前田部会長「決をとる前に、みなさんの意見を確認したい。今の時点でAIチャットボットの多言語化に賛成の人は手を挙げてください。（3人）まだ発言をしていないマリさんから意見はあるか。」

ンディアエ委員「自分もチャットボットを使ったことはない。性能が低いということだが、将来的には改善されるかもしれない。今はコロナ禍なので、オンラインで調べたりできるのはよいと思う。」

張副委員長「川崎市が多言語のAIチャットボットを導入することで、外国人を支援しているという川崎市のアピールになると思う。」

前田部会長「事務局に聞きたいのだが、先ほど張さんから私たちが翻訳や回答の作成に協力するという意見があったかと思うが、本当にそれは可能なのか。」

事務局高橋専門調査員「できないと思う。まず、翻訳料が発生するとしたら、なぜそれを代表者が引き受けるのかという問題がでる。みなさんは任期が終われば代表者ではなくなるし、市が入札などではなく、特定の個人とそのような契約は結べない。次に、回答の作成についても、みなさんが個人的に回答を作成するのではなく、市が責任をもつ必要がある。もし、多言語化するということがなれば、市が責任をもって業者に委託することになると思う。」

前田部会長「では、別の議題もあるのでここで決をとりたい。AIチャットボットの多言語化に賛成の人は手を挙げてください。（3人）反対あるいは今回は見送るという人は手を挙げてください。（7人）それでは、AIチャットボットの多言語化に関しては提言の候補から外す。続いて、多文化共生ラウンジについて審議したい。何か意見はあるか。」

李委員「7月に多文化共生推進課が開催した夏休みの宿題教室に通訳ボランティアとして参加したのだが、そこで2人の方と話したことが印象に残っている。1人は、日本に来たばかりで日本語が話せず、家族もあまり日本語が話せないという若い女性だった。もう1人は、日本に来て2年くらいだが日本語がまったく話せず、いろいろな課題や問題を抱えていた。その2人と話して感じたのは、

全体としては日本語が話せる外国人が増えている一方で、まったく話せない人もいて、そうした人々への日本語学習の支援の必要性は大きい。彼らは留学生のようにネットワークをもっているわけではなく、情報にもアクセスできていない。まさに多文化共生ラウンジがあると、すごく助かるのではないかと思った。国際交流センター以外にも、気軽に行けるラウンジができるとよい。」

張副委員長「多文化共生ラウンジには賛成だが、今はコロナ禍で4人以上は集まらないようにということになっている。すぐに実現して欲しいという要望なのか、コロナが落ち着いたら実現して欲しいという提言なのか、はっきりさせた方がよい。」

チョ委員「何かあったときに、あそこに行けば会えるよとか、何かあるよといった、外国人に馴染みのある場所ができるとよいと思う。同じ国の人ではなくても、ほかの外国人も来ているなということがわかるだけでも気持ち的にリラックスできる。」

ンディアエ委員「再提言ということなので、どうすればAにできるかを考えるべきだと思う。」

スチュエタ委員「コロナ禍ということも含めて、再提言できるとよい。」

李委員「実現性を高めるという意味では、まずは外国人の多い地域に1つ設置するというのを強調するのはどうか。」

尹委員「再提言ということなので、前回提言したときの議論をもう少し知りたい。」

前田部会長「前回の議論については、すでに会議資料として提出してもらっている。各自でもう一度確認して欲しい。ほかに何かあるか。（なし）では、再提言に向けて引き続き審議して、Aになるように、内容を深めていきたい。それでは、時間になったのでこれで部会を終わりにする。」

【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、安心生活部会を始めたい。まずは、事務局から今日の日程と前回会議のまとめについて説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料1に基づき説明）

児玉部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、今日の部会審議について事務局から説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明）

児玉部会長「では、まずは多言語ツールの作成について審議する。事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料3-1に基づき説明)

児玉部会長「何か意見はあるか。」

劉委員「私が候補の中で興味があるのは保育園と療育センターだ。保育園に関しては、もともと関心が高い。療育センターに関しては、知り合いの中に子どもの言葉の発達が少し遅れていて、心配したり苦労したりしている人がいる。やはり親としてはすごく心配するところなので、母語で情報が得られると安心すると思う。」

児玉部会長「実際につくるということになるのと、いつまでにつくる必要があるのか。」

事務局五十嵐職員「3月末の時点でできている必要がある。」

バテネフ委員「事前にみなさんに希望調査をして、結果をとりまとめたうえで決めたらどうか。」

事務局高橋専門調査員「単純な投票による多数決ではなく、なぜそのツールをつくるのかという理由を共有する必要がある。」

児玉部会長「それでは、少し時間をとるので、何をつくりたいかの理由をあげて欲しい。」

劉委員「私は、保育園をぜひやりたい。11期のときのツールと合わせると、より完璧に近くなり、保育を利用できる人も増えると思う。それと、療育センターについてもやりたい。障害はなかなかスポットが当たりにくい部分だと思うので、行政の対応を待っていてもなかなか進まないかもしれない。」

児玉部会長「私も区役所で話を聞いたら、職員の人が保育のツールはあったらありがたいと言っていた。それと、マイナンバーはがあると役立つのではないかと思う。」

バテネフ委員「保育とマイナンバーがよいと思う。単純に利用者が多い。」

金委員「私も保育とマイナンバーは書き方をよく聞かれる。」

児玉部会長「それでは、みなさんの意見をふまえてGoogleフォームで希望調査をし、その結果をもとに次の会議で決めるということでは、(異議なし)では、続いてオリエンテーションの再提言についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料3-1に基づき説明)

児玉部会長「何か意見はあるか。」

レイバーマン委員「先日のオリエンテーションに参加したが、大変よかった。おそらく、コロナが理由で参加者がやや少なかったのは残念だが、年に1回だけではなく、定期的に開催して欲しい。」

ペレーラ委員長「私も参加したが、非常によかった。資料もたくさん用意してくれていたし、〈やさしい日本語〉での説明もよかった。参加者を増やすためには、私たちもFacebookなどで発信するとよいと思う。内容は全体的なことを一通り説明する感じだったが、通訳もいたのでより具体的なことを個別に聞けるとよいと思った。」

ユデク委員「私も参加したが、ぜひ継続して欲しいと思った。提言にする場合だが、参加人数をどう増やすかなど課題はあるが内容的に見直すことはほとんどないと感じた。」

ボソ委員「私も通訳として参加した。私たち代表者にとっても、外国人市民の私たちのニーズやどのようなことで困っているのかを聞く場にもなると思った。」

ムハマド委員「私も参加して、説明もわかりやすく、内容もよかったので、継続して欲しいと思ったが、参加者が少なかったのが残念で、改善が必要だと思った。」

児玉部会長「私もどうすれば人を呼べるかは課題だと感じた。」

ボール委員「私は参加できなかったのだが、みなさんの話を聞いていると外国人だけでなく、日本人にとってもよい機会になるのではないかと思った。」

児玉部会長「そろそろ時間なので、最後にコミュニティリーダーについて審議したい。事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料3-1に基づき説明)

児玉部会長「何か質問や意見はあるか。」

ペレーラ委員長「私も調べてみたが、福井県の事例はたくさんヒットしたが、東京の事例は見つからなかった。」

レイバーマン委員「川崎市は大きいまちだが、コミュニティの範囲はどのように考えているか整理した方がよいと思う。町内会のレベルか。」

事務局五十嵐職員「まず、私も調べたが、東京の事例は見つけれなかった。コミュニティの範囲についてだが、地域をベースとしたコミュニティというよりは、同国人のコミュニティというイメージだ。」

ペレーラ委員長「福井の事例では、具体的にやっていることはSNSなどでの情報

の拡散^{かくさん}なので、それならわざわざ提言^{ていげん}にしなくても私たち^{わたし}でも十分^{じゅうぶん}にできる
のではないかと^{おも}う。」

児玉部会長^{こだまぶかいちょう}「では、時間^{じかん}になったのでこれで審議^{しんぎ}は^お終わりにしたい。次回^{じかい}の会議^{かいぎ}に向
けて資料^{しりょう}のリクエスト^{りくえすと}はあるか。（なし）それでは、これで安心生活部会^{あんしんせいかつぶかい}
を^お終わりにする。」